

第10期地域自立支援協議会の部会運営について

板橋区地域自立支援協議会は、令和5～6年度の2か年を「第9期」としている。来年度から新たに「第10期」がスタートすることを踏まえ、現在の各部会の運営における課題等を抽出し、第10期の部会運営を見直すことを目的に、全部会員へアンケート調査を実施した。

アンケート結果から、第10期の部会運営について、各部長をはじめ協議会委員からご意見を伺い、見直しを進めていきたい。

1 アンケート調査の概要

調査期間	令和6年9月18日(水)～10月4日(金)
対象者	板橋区地域自立支援協議会 全部会員
回答者数	31名
質問	<p>①部会に参加して感じること 例) ○○の意見を聞きたいが、○○分野の部会員がいない・少ない 人数が多くて発言しづらい 専門的な話が多く、わからない 様々な分野から意見が出て、有意義な場になっている</p> <p>②今後の部会の運営に関する希望 例) ○○についてもっと意見交換したい ○○分野の部会員を入れて欲しい もっと少人数で発言しやすくして欲しい 当事者を部会員に入れて欲しい(○○障がい者)</p>

2 各部会員からの回答

(1) 相談支援部会

質問	①部会に参加して感じること
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・医療分野の部会員も選任されているが、第9期活動計画の「医療と連携して支援体制を強化する取組の検討」に繋げるのが難しいと思う。同様に、教育関係の部会委員もいないが、「支援体制の強化」を具体的にどう考えているか明確化したほうが良い。 ・各関係機関の連携がさらに深化すると良いと感じた。 ・報告事項や協議事項の内容により、時間に追われている感じがする。 ・人数が多く、発言に勇気がある。ざっくばらんに発言できる雰囲気ではない。 ・去年1回行ったグループワーク(少人数での意見交換)はとても有意義だった。 ・様々な分野の意見が聞けるため大変ありがたいが、地域課題への協議と考えると相談支援関係者からの意見だけでは足りない部分があると思う。 ・区の地域課題を挙げ、より良いサービス提供ができる体制整備を検討していく場だと思うが、現状そのような話し合いができていないと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が障がい者計画等のどの項目に類似するのか、課題を解決するためにどの分野の協力が必要なのかといった具体的なアナウンスがあると、より意見を聞けたり他部会との連携の必要性などがわかりやすくなると思う。 ・何かひとつでも前進しているという実感のもてるような具体的な取組や目標をもてると、より中身のある会になると感じている。 ・相談支援に携わる事業者が多いメンバー構成なので、現場の実情に即した意見交換が出やすい印象だったが、最近の部会ではあまり活発な意見交換となく、にくい印象に変わってきている。テーマの違いやメンバーによるものなのか、よくわからない。 ・民生委員へ障がい者からの相談は少ないが、部会員に民生委員は必要か。 ・事務局が後方2列で座っている配置に威圧感を感じることもある。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員の任期を明確にしたほうが良い。 ・部会がめざす長期的な目標と各期の取組計画（ロードマップ）を示してもらいたい。 ・共生社会の実現に向けた重層的相談支援体制の構築を念頭に、保健・医療・介護等との連携を評価する仕組みを作りたい。相談支援事業所の部会員が多いので、そこを減らして介護・引きこもり・教育等の「相談」を担っていて障がいにも携わる人の参加を検討しても良いと思う。 ・区の強みや課題、もっとこういうサービスがあったほうが良い等、社会資源について意見交換できると良い。 ・地域移行・地域定着支援を含め、精神障がいに関する相談支援についても「にも包括」を進めるにあたり協議しても良いと思う。 ・障がい者の災害対応（個別避難計画の課題検証）について検討したい。 ・計画相談の課題や悩みを抱えている家族は多く、相談窓口の分かりやすさをどうするべきか、より協議を行ったほうが良いと思う。 ・相談支援事業所の閉鎖が増えている。相談支援の質向上のために基幹相談支援センターによる初回アセスメント同行やバックアップ体制などの役割強化について考えていくことが必要。 ・年3回しか開催されないので、現状の報告会のような内容ではなく、課題に対し優先度をつけて協議する場としたい。一つの議題に時間を割いて議論してみても良いのでは。 ・年1回は少人数での意見交換の時間を設けていただきたい。 ・少人数だと発言しやすい。 ・多くの区内相談支援事業所が参加できるよう周知していただきたい。事業所間の格差を無くすことにも繋がると思う。 ・部会を掛け持ちしている部会員が多いので、全部会と繋がりが持てるように委員を選出するのはいかがか。（本会がその機能を果たせれば必要ない） ・時間内で終わらない協議事項については、少人数での意見交換会を開催しても良いと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所実務担当者連絡会との連動性があるといい。連絡会に出てきた地域課題等を部会で検討できるといい。 ・サポートファイルのことが今期障がい児部会のテーマの一つになっているが、相談支援部会でも取り上げていいテーマと思う。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 障がい児部会

質問	①部会に参加して感じること
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間で2回の開催では、テーマを継続的に扱えない印象がある。 ・部会員は、それぞれの現場における障がい児に対する取組や課題、どのように他機関と連携しているかなど、具体的な話を聞きたいと思われるが、行政から担当職員が出席していても詳細は答えられない。予め質問内容が分かっていたら現場の職員にヒアリングをしておくことはできると思う。 ・様々な立場の意見や情報を得ることができるため、部会後には定例児童館長会で情報共有を行い、各児童館の相談業務で役立てている。 ・部会の目的に掲げられている「施策の検討を行う会議体」となっているのかは疑問。 ・行政の各部署の話を知るのはとてもありがたく、勉強になる。 ・専門的な話が多く難しいこともあるが、有意義な場となっている。 ・区の障がい児に対する福祉資源などを検討する場のはずだが、板橋区からの報告・説明が多く、協議できているとは感じにくい。 ・質問や意見を出す顔ぶれに偏りがあり、遠慮や不全感が残って終わることが多い。 ・区の行政職員が多い印象で、あまり現場の意見が反映されている印象が少なく感じている。 ・意見交換の場とはなっていないことが多く、出席のためにやりくりをして出てきているであろう部会員の、会議に対する期待が見えにくく残念。 ・児童発達支援センターは3施設来ているが、学童を支援する施設では放課後等デイサービス1か所のみで、現場としての意見が出にくい印象。 ・自立支援協議会内のみで完結してしまっているものが多く、各回の内容が連続して協議ができていないと思う。 ・教育や保育の分野など支援者側についても、実際の現場に直接関わっているのではなく、行政の立場としての部会員が多いのも、課題や意見を出しにくい点があるのかも感じる。

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・就学後の子どもを支援している施設の人をもう少し入れた方がいいと思う。 ・学童クラブの人なども含めて、実際の現場の話を聞いてみたい。 ・時間があれば、意見は2つのグループに分けるなどの少人数の方が出しやすいと思うし、その上で全体で共有して議論をしたり回答を貰う形をとるのはいかがか。 ・私立保育所の状況がわかる、保育サービス課も入っていただけると良いので

	<p>はないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回でなくとも、当事者（肢体、知的、発達、視覚、聴覚全て）の意見を伺える機会をつくれると良いと思う。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

（３）障がい当事者部会

質問	①部会に参加して感じること
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者及び当事者家族が、障がい種別を越えて理解し合える場の必要性を感じる。 ・各団体からの情報提供など、とても勉強になることが多い。 ・審議内容の割に時間が短い。 ・様々な障がいの当事者や高齢の部会員もいるが、内容がすべての部会員に伝わっているか心配。 ・当事者が参加しやすいよう、意思疎通支援などの合理的配慮が求められる。 ・話しやすい雰囲気で見聞を伝えやすい。 ・様々な障がいについての話を聞くことができ、理解が深まり、それぞれの支援について考えさせられる良い機会になっている。 ・部会員それぞれが各当事者や家族団体を代表して参加しているという意識なので、主張が前面に出てしまい、理解する場ではなく意見を言う場になってしまっているのが残念。

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・協議内容によっては、意見交換会などを行うことも良いと思う。 （実際に一度実施し、とても有意義だった。） ・支援者が必要な障がいのある人の参画がこれからの課題だと思う。ただ、すべての障がい種別を当事者のみとしてしまうと、自分の気持ちを伝えることが難しい当事者は置き去りにされてしまうと思う。 ・年２回だけの開催では、部会からの提案や提言は何も期待されていないのではと懐疑的になる。 ・当事者が内に秘める切実な提案や提言を引き出し、当事者の持てる力を存分に活かせる部会になってほしい。そのために、引き出した提案や提言を文字化することが事務局の重要な役割と考える。 ・当事者の悩みや不安を伝えて実態を知るだけでなく、その実態に対する現在の取組や対策の検討状況などを知りたい。

（４）就労支援部会

質問	①部会に参加して感じること
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員が積極的に発言し、非常に活性化している。個人的にも非常に勉強になっている。 ・各所の現状を聞くことができ、自身の所属としての役割を改めて振り返る機会になっている ・ぜひ、部会で採択された意見が具現化できることを期待している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉分野以外にも様々な立場の部会員が出席しており、少人数なこともあり意見が出しやすい雰囲気だと思う。 ・開催回数が少ないため、場が温まるまでの時間が毎回かかるように感じる。 ・今年度は川崎市の先進事例を共有することができたのが良かった。欲を言えば、これを区の活動に反映させるところまで追いかけていけるといいと思った。 ・講演会の話などもあったが、目的が絞り切れていないところでの検討になり、議論に至る前の空走時間が長くなってしまったように感じた。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい当事者（身体・知的・精神）にも参加してもらってはどうか。貴重な意見が聞けると思う。 ・活動の目的を達成するためのロードマップを考えてみる必要があるような気がする。 ・引き続き、事業所や企業状況について共有する機会をいただきたい。 ・企業から障がい者雇用の現状や困りごとを聞ける機会があると嬉しい。 ・障がい者雇用の促進につなげるため、協働し、就労移行支援事業所に出来ることを考えたい。

(5) 高次脳機能障がい部会

質問	①部会に参加していて感じる事
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・行政関係者の出席がほぼない（福祉事務所、健康福祉センター、おとしより相談センターなど）。

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・行政関係（福祉事務所、健康福祉センター、おとしより相談センターなど）と介護保険分野（ケアマネなど）の関係者を増やしたい。 ・対面とオンラインの同時開催時の機材を充実化して欲しい。

(6) 権利擁護部会

質問	①部会に参加していて感じる事
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が多くて気軽には発言しづらい。 ・自身の分野の専門外の内容であり、新たな見識・知見を得られるが、意見を求められても答えられない。 ・様々な分野の部会員が参加しているのに、その良さが活かされていない気がする。 ・様々な分野の部会員から、異なった視点での意見を聞きたいと思うが、発言する部会員がおおよそ決まってしまうことが残念。 ・様々な分野から意見が出て有意義な場になっていると思う。 ・発言をしている部会員から、個人としても有益な情報をいただいている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の事例を挙げての話ができない。 ・様々な立場や障がい分野の話の聞けることはとても有意義だが、もっと話し合いを深める場になれば良いと思う。 ・何らかの部会の成果（具体的な取組）を出したいと考えるが、なかなか難しい状況と思う。 ・部会によるかと思うが、部会で話された内容が区取組に反映されているのか気になる（フィードバックの仕方）。 ・差別解消法セミナーは部会と障がい者福祉センターの共催となっているが、なかなか部会員の参画ができていない状況となっている。進行管理上、経過報告だけになってしまうが、企画に乗ってもらうことも良いのではないかと思う（当日の役割分担、パネラー参加等）。
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

質問	②今後の部会の運営に関する希望
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部会の内容をもう少し共有できればと思う。 ・部会と事例検討会という二本立ての取組は良いと思うので、出来れば続けていただきたい。 ・障がい者計画で、「権利擁護に関する相談などの充実」に向けて「権利擁護体制の強化」を権利擁護部会が担うこととなっており、現状の権利擁護体制の評価と課題を明確化すること、事業所説明会や連絡会等で学ぶ機会の提供方法は、検討していく必要があると思う。 ・「障がい者虐待への適切な対応の確保」について、事例をもとに養護者による虐待に対する養護者への支援を迅速に行う体制づくりを検討したい。 ・実際に虐待認定された施設従事者等による虐待の管理者を呼んで（呼べなければ改善計画を確認して）、再発防止についての検討とともにモニタリングを実施したい。 ・おとしより保健福祉センターや子ども家庭総合支援センターが参加しているので、高齢者や子ども分野と障がい分野との連携等も手を出せると良いと思うが、広がりすぎてしまうと考えられるので、オブザーバー的に発言を求めていくようにしていきたい。 ・虐待防止や差別解消の取組で他自治体の好事例があれば、部会として見学・視察等ができると思う。 ・当事者の意見や視点が取り入れられると、より具体的な内容を話し合うことができるようになると思う。

3 第10期の方向性（事務局案）

今回のアンケート調査結果を踏まえ、事務局で検討した結果、第10期の方向性として、区で課題解決に繋がる施策を具現化できるような協議が必要であると考えます。

そのためには、各期や各年度で長期的・短期的な目標やテーマを決め、各定例部会で協議できるようにするほか、各定例部会員の選定は、前例踏襲ではなく、テーマに応じた選定・依頼をすることが必要である。

板橋区地域自立支援協議会 各部会 第9期 協議事項

相談支援部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> (1)基幹相談支援センター事業の機能強化 (2)相談支援・障がい児相談支援の充実 2 板橋区における地域生活支援拠点等の整備促進
障がい児部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 サポートファイルの運用 2 放課後等デイサービス・児童発達支援事業所の課題抽出・検討 3 重症心身障がい・医療的ケア児等会議への意見・提言 等
就労支援部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 就労支援ハンドブックを活用した民間企業における障がい者雇用促進に向けた支援策の検討 2 ハートワーク、就労支援、定着支援事業所の連携強化 3 就労支援機関と連携したチャレンジ就労の充実
権利擁護部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業所・区民に対する差別解消法の意識啓発・普及 <ul style="list-style-type: none"> →障害者差別解消法セミナー等 2 虐待防止に係る取り組みについての意見・提言 <ul style="list-style-type: none"> →事例の共有、相談体制の協議等 3 成年後見人制度の利用促進に向けた意見・提言 <ul style="list-style-type: none"> →板橋区成年後見制度利用促進基本計画に基づく取り組みの共有等
障がい当事者部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 当事者の高齢化、障がい重度化による課題抽出・検討 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の集約 ・課題に対応する社会資源の確認 等 2 緊急時を見据えた支援体制の課題抽出・検討 <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点等整備状況の報告等 3 各部会からの協議事項に対して、当事者の方に意見を聞く場 <ul style="list-style-type: none"> ・各部会からのアンケートの回答等
高次脳機能障がい部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 高次脳機能障がい支援関係者連絡会 2 高次脳機能障がい者・家族交流会 3 症例検討会 4 板橋区高次脳機能障がい支援クラウドコミュニティ (リアルタイムな連携)企画・開設

板橋区地域自立支援協議会 各部会構成員

相談支援部会

役職		区分	
部会長	1	基幹相談支援センター	
副部会長	2	相談支援事業者	
部会員	3	基幹相談支援センター	
	4	相談支援事業者	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		発達障がい者支援センター
	10		児童発達支援センター
	11		保健・医療関係者
	12		障がい当事者等
	13		障がい者相談員
	14		
	15		民生委員
	16	区職員	
	17		

障がい児部会

役職		区分
部会長	1	保健・医療関係者
副部会長	2	子育て・教育関係者
部会員	3	児童発達支援センター
	4	
	5	
	6	放課後等デイサービス事業所
	7	区職員
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	

権利擁護部会

役職		区分
部会長	1	学識経験者
副部会長	2	法曹関係者
部会員	3	保健・医療関係者
	4	障害福祉サービス事業者
	5	相談支援事業者
	6	企業・雇用関係者
	7	子育て・教育関係者
	8	民生児童委員
	9	公募委員
	10	障がい当事者等
	11	社会福祉協議会
	12	障がい者虐待防止センター
	13	区職員
	14	
	15	
	16	

当事者部会

役職		区分
部会長	1	障がい当事者等
副部会長	2	
部会員	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	

就労支援部会

役職		区分
部会長	1	企業・雇用関係者
副部会長	2	
部会員	3	企業
	4	ハローワーク
	5	障害者就業・生活支援センター
	6	東京障害者職業センター
	7	特別支援学校 進路指導部
	8	就労移行・定着支援事業所
	9	
	10	
	11	区職員

高次脳機能障がい部会

役職		区分
部会長	1	学識経験者
副部会長	2	就労継続支援事業所
部会員		医療関係者 (医師、PT、OT、ST 他) 障がい者福祉センター 居宅介護事業所 地域活動支援センター 当事者、当事者家族 区職員 都職員 他